



乳房のしこり

乳房にしこりを感じたら、何を疑いますか。
誰もがすぐ思うのは癌ですね。でも悪性ではないしこりもたくさんあります。
今回はそのうちのいくつかについて説明します。

Text by 欧州日本人医師会 加藤恵一 医師/産婦人科 (バイエルン ドイツ)

私の乳腺外来には、多くの方がしこりに触れたという理由から訪れます。全く普通の乳腺である場合も多いのですが、次のような事例が見られることもあります。

+ 乳腺症 (mastopathy)

全ての年齢で見られますが、ホルモンに関係していることもあって、閉経後には少なくなります。いわゆる「かたまり」に触れ、押さえると痛みを感じます。簡単に言うと、乳腺が腫れた状態です。特に月経前にひどくなり、その後では痛みが引いていくのが特徴です。病気ではありませんし、(ごく一部の例外を除いて) 癌とも無関係です。乳房の両側に見られることが多いのですが、乳腺は必ずしも左右対象ではありませんので、片側だけのこともあります。治療法はなく、せいぜい痛み止めを飲むくらいです。ホルモンを含む軟膏が処方されることもあります。臨床研究ではその効果は証明されていません。

+ 乳腺線維腺腫 (fibroadenoma)

若い人に多い腫瘍です。腫瘍とは言っても良性で、癌になることはありません。乳腺症とは異なり、コロコロと、ちょうど豆のように触れ、痛みはなく、月経とも関係ありません。時によっては、1つだけではなく、同時にいくつもできることもあります。超音波で診断できます。何年も大きさが変わらないことが多く、その場合は治療の必要はありませんが、どんどん大きくなる場合には切除します。これも閉経後には大抵小さくなります。

+ 乳腺嚢腫 (cyst)

乳腺の中には小胞と呼ばれる袋があり、出産後にはここから母乳が分泌されます。嚢腫はここになんらかの原因で水がたまった状態です。ですから腫瘍ではありません。大きさはさまざまで、2～3ミリから、

6～7センチにまでなることもあります。両方の乳房にたくさん見られることもあります。治療は不要ですが、あまり大きくなると張って痛くなるがあるので、その場合は針で中の水を抜くこともできます。ただし、何か月もするとまた溜まってしまう場合もあります。

いかがでしょうか。私のところでは、しこりの90%以上が無害なものです。しかし、癌であることももちろんあります。何か通常ではないものに触れた場合は、いたずらにパニックに陥らず、専門家の診察を受けるようにしましょう。



© すしばく

欧州日本人医師会 電話無料健康相談のご案内

(ご注意：診察ではありません)

欧州9カ国、20名余りの非営利団体に属する日本人医師が、海外赴任や旅行など不慣れた海外生活での医療に関する、無料の健康相談を行います。

健康相談は予約制です。下記のEmailアドレス宛にメールをお送りいただくか、医師会ウェブサイトからお申し込みください。

jmaeurope@googlemail.com

その際、大まかな相談内容(例えば、小児科についての相談など)、お名前、国名、Emailアドレス(間違えないように、はっきりとお書きください)、差し支えがなければ連絡先の電話番号もご記入ください。後日、担当者より電話相談の日時をお知らせいたします。

電話番号：+49 9951 9493 399

上記電話番号は、予約した日時しかつながりませんので、ご注意ください。

<http://www.eu-jp-doctors.org>